

【ねがいはましては】

令和4年6月25日
第377号

KYOWA SCHOOL

「孤独に没頭」

新聞の寸評欄が毎日変化があって面白いのです。時事変化する社会を取り上げることもあれば、時折現れる方々の生きざまが新鮮な味を感じさせてくれます。そのある日の寸評欄に、作家の今村翔吾さんのことが載っていました。

今村さんは現在38才、小学校5年生の時にたまたま近所の古本屋さんに積まれてあった本に目がとまります。そうなるもどなたも同じだと思うのですが、毎日それが気になります。どんな物語なのだろう。どんな主人公なのだろう。いろいろと想像が膨らみます。人は得てして気になるものや気になることに遭遇すると、それを美化し良い方向へと築きあげていく傾向が強いと思います。例えば、気になるゲームが目にとまると、その内容が楽しくてたまらないものなのだろうと想像をかき立てます。欲しくてたまらなくなります。やりたくてたまらなくなります。

ウインドウショッピングの際に、ちょっと気になった服に目がとまると、それをまとった自分を想像し、着たくてたまらなくなります。そして店内に・・・店員さんに「お似合いですねー」で、一発購入・・・。

といった具合です。

さて今村さん。目にとまった本は、池波正太郎さんの『真田太平記』でした。母親にねだり購入、読んでみるとこれが面白い。全巻一気に読破、歴史小説にのめり込んだそうです。そして有言します。「将来作家になる」と、卒業文集に書いたそうです。その後、ダンスインストラクターとして活躍されていましたが、30才のある日、教え子さんに一言「夢を諦めてますね」と。これで目覚めた今村さんは一念発起、数日してインストラクターを退職。作家への道を歩み始めたそうです。そして32才でデビュー。5年後の今年、直木賞を射止めました。

その今村さんは、「お礼」の旅に出ます。全47都道府県の書店や学校を4ヶ月をかけ、ワゴン車で巡る旅。「一人くらい騒々しい作家がいてもいい」そう語っているそうです。その「お礼」、きっと街の書店が次々と姿を消していく現状への危機感がそうさせているのでしょう。と、新聞社は書いています。講演やサイン会を通じて読者や子どもたちと交流し、業界を少しでも元気づけようとされているのでしょう。「たまたま目に入ってきた本が人生を変えるかもしれない」。

現在今村さんは経営が傾いた書店を引き継ぎ頑張っているそうです。

本との出会い、そして教え子さんからの一言・・・。人の人生を大きく変えてしまう出来事は、何気ないところに転がっているのかもしれませんが。そのどちらも・・・『旅』・・・外へ出る、ということです。

学校での授業、「あれっ」と、気になる出会いの機会を多数準備することが大切なような気がします。そして気になったら、その『気になる』をすぐに目の前にし、読んでみたり、さわってみたり、調べてみたり・・・。時間の経つのを忘れ、無我夢中になる姿・・・。子どもの理想の姿のように感じます。

そういえば、私も小学生当時、週刊漫画が大流行していた時代に、周りの子たちが皆、週刊誌の登場人物の話に花が咲いていた頃、読みたくてたまらなくなり、親にせがみ買ってもらったことがありました。初めてのマンガ、家まで待てません。やっぱり歩きながら読んでしまいます。商店街のアーケードの中は人であふれています。ぶつかりそうになりながら無我夢中でめり込みます。そしてぶつかった人がお巡りさんだったことを覚えています。

本との出会いは、一見ひとりぼっちの世界のように思えますが、読んでいる人の心の中には、多くの登場者が居、その主人公になりきっていたり、空の上から眺めるように感じていたり、今いる世界とは全くちがう世界の中を飛び回っています。ワクワクどきどきの連続、次はどうなるのだろう、さて次は・・・。

活字の世界は、「ひと」だけに許された特別な世界です。「ひと」以外には経験することはできません。その「文字」を子どもたちは学校で学んでいきます。矛盾が現れます。書ければ良いのです。意味はあまり関係ありません。宿題で書く漢字、テストで書く漢字。そのどれもが正確に書いてさえあればオーケーです。書けなかったらどうしよう。読めなかったらどうしよう。「どうしよう」の連続の毎日・・・。

本来「文字」は、相手に意思を伝えるための大切な具体物です。書ける、読める、意味が分かる、そして使える。この四拍子が揃って初めてオーケーだと思うのですが、どうもなかなか上手いかないようです。

初めて出会った「ことば」に、「こんど、このことばをつかって文をかいてみたいな」なんて魅力を感じることもばや漢字・・・。そんな魅力を伝えることが学びだと思います。書けたから何点。書けなかったから何点。点数ばかりがちらちらしてしまう日常。

子が夢中になって本を読みふける・・・。そんな姿を背中から応援するお母さん、そしてお父さん。

「じつはあした、テストなんだ」と、子は言います。「続きを読みたいんでしょ、まっ、あしたはテストだってことは、おかあさん、これからも知らなかったわ。」子は思います。「ありがとう、おかあさん。」

夢中になって本に目をやるお子さん。どうしようどうしようと、明日のテストのための漢字を何度も書くお子さん。意味は分かっています。どちらが「ひと」らしいのか・・・。